ちょっと名大史

215

30年前の入試改革と名大

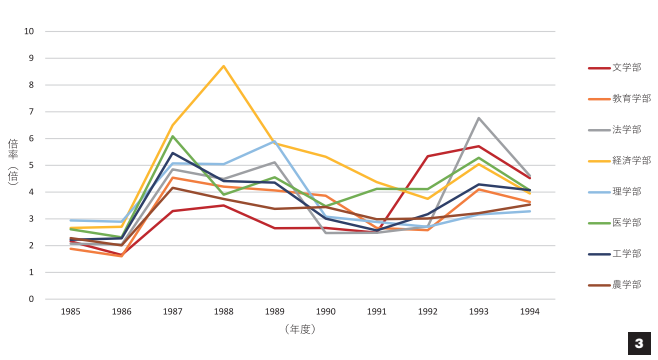
先日、名大の2020（令和2）年度一般入試（前期日程）の合格発表がありましたが、今回が大学入試センター試験を一次試験とする最後の入試となりました。21年度入試からは、大学入学共通テストが始まります。

同じように元号が変わった30年ほど前にも、大きな入試改革が行われています。まず1987（昭和62）年度入試から、国公立大学の受験機会の複数化等のため、二次試験をＡ日程とＢ日程に分けて行う「連続方式」が実施されました。1989（平成元）年度からは、これと併行して、二次試験を前期日程と後期日程に分けて行うが、前期日程合格者は後期及びＢ日程の受験前に入学手続を行う「分離・分割方式」が導入されました。

さらに、共通一次試験の改革が行われ、1990（平成2）年度入試から現在の大学入試センター試験が始まります。利用する教科やその配点を大学ごとに決める方式が採用され、私立大学も試験を利用できるようになりました。

名大では、1987年度入試は全学部が連続方式のＡ日程でしたが、88年度は経済学部のみＡ・Ｂ両日程で実施しました。89年度は、新規導入された分離・分割方式を採用せず現状を維持します。しかし、90年度には、文・教育・法・医学部が連続方式のＡ日程、経済・理・工・農学部が分離・分割方式の前期・後期両日程と大きく変わりました。その後、91年度に医学部、92年度に文学部が分離・分割方式に移行、93年度からは全学部が分離・分割方式の前期・後期両日程になりました。

この時期の国公立大学は、入試制度や大学ごとの入試方法の目まぐるしい変更により、入試倍率の大きな変動が年単位で頻繁に見られ、名大も例外ではありませんでした。例えば経済学部は、86年度は2.7倍でしたが、連続方式Ａ日程となった87年度には6.5倍に跳ね上がり、Ａ・Ｂ両日程となった88年度にはさらに8.7倍まで上昇しています。



1　名大が初めて分離・分割方式を採用した、1990年度入試の二次試験の様子。
2　名大前期日程一般入試の合格発表（2019年3月9日）。名大は、08年度には全学部が分離・分割方式の前期日程のみとなった。現在は、医学部医学科の地域枠若干名のみが後期日程で行われている。
3　名大の学部別入試倍率（志願者数／入学定員数）。

BRIEF HISTORY OF NAGOYA UNIVERSITY

名古屋大学基金のご案内　名古屋大学が優れた人材輩出や世界的な研究成果により、今後も日本や地域に貢献し続けるには、安定した独自財源が必要です。「名古屋大学基金」はその基盤であり、皆様からのご寄附を、さまざまな事業に活用させていただきます。何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

人を伸ばす、明日を創る、世界と歩む
NAGOYA UNIVERSITY プロジェクト NU MIRAI

特定基金　名古屋大学基金の中には、研究推進や人材育成など、支援目的を特定してご寄附いただける事業もご用意しております。

ご寄附のお申込み、お問い合わせはDevelopment Office（DO室）あて（電話052-789-4993、Eメールkikin@adm.nagoya-u.ac.jp）にお願いいたします。

■ 詳しくはホームページをご覧ください。
名古屋大学基金　http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/kikin/
アクセスはこちらから